

みづから願ひ思ふことはならずして。おもはざることの出きたるは。人界の常にして。其身の禍福に寄因縁のなす所なり。桐が谷の青原屋喜代七おふりにわかれてより。寡くらしのつれづれ。化粧城にかよひて。はからずもおりさにめぐり合。久くにてのつもるはなしも。透すしてほみなき別れ。猶もおもひのたねとなり。それよりしては逢こどなく。いづかたへやらしかへられ。行しとのみきゝて。その在所もわからず。いかにやせんと。たゞあんじづくをれ。うつうつとわすれず。思ひ惱みたる所に。或日旅装束の侍としごろ六十餘りの男娘と見えて。わかき女をひきつれ來り。喜代七にあはんといふゆへ。いぶかしながら。中の小ざしきへ請し入れ。喜代七對面して。いまだひとたびも見なれざる御かた。何御用ありてか。來り給ふぞといふに。侍しかつべらしく。われらことは京家の侍。五十風小文次と申すもの。其許へ用事ありて。わざ／＼くだりしその子細はおつて。まづ／＼。むすめにあひたまへと。めしつれし女の綿ぼうしをとらせ。ひきあはするを見れば。先年喜代七上京の折から。ぎをん町にてなじみかさねし。遊女玉照なりければ。はつとおどろき。赤面し。さしうつき當惑の體。玉照そのまゝにじりよりて。めづらしや喜代七さま。御身に誑られ。心中せんと死覺悟違ひて。親方の折檻つよく。そのうへ外へしかへられ。さま／＼のうき難儀。やう／＼凌て年明たれば。かねがね約束申せしとほり。そなたさまと夫婦にならんと。はる／＼尋ねくだりたれば。よきにとばかりいひさして。衿に顔をさしいる。その尾につきて小文次いふ。この女こそわれらの實子。恥をいはずれば理きこへず。われら放埒づかひに主人の金子を引負し。いひわけなく。このむすめを祇園町へつとめ奉公。その身の代をもつて。主人方へつぐのひ。危急の難はのがれしが。しだいに年月たちて。むすめの年季もあけ。われらのかたへひきとりしに。傍輩どもの中より。相當のゑんとて懇望にあひ。かたづけんとせし所。むすめはつとめの内。そのもとふかくいひかはし。末は夫婦とまでおもひこみしに。其もとも主人の金子をつかひこみ。むすめも借金おほく。たがひに身のつまりとなり。すてに申合せて。相對死せんとせしほどの中なりしに。その

もといかゞ心變せしや。約をたがへ歸國ありしにより。むすめも死おくれ。これまでも生のびたりしが。一旦其元にちかひしことゆへ。外に縁をくむ望なし。せひとも其元ならでは。男にはもつまじと。たつてのねがひわれら契約せし傍輩どものかたへ。いひわけなきゆへ。さまざまに説きかせ。すゝむれども得心せず。しみていはど。自害しあいはてんと。又しても双物さんまいするにせんかたなく。ひとつにはむすめのふびんさ。それほどまでに戀したふおとこ。もたすが親の慈悲とおもひ。このたび主人手前は。入湯と偽り。しばらくのいとまを乞請。わざ／＼めしつれくだりたれば。早速祝言とりむすばれ。ながく。むすめの面倒を見てくれる。やう。頼み入と。おもひもよらぬことばに。喜代七迷惑し。くちごもりあたりけるが。稍ありていふやう。成程先年上京のとき。そのもとさまの娘御ともしらず。遊所のならひ。戯れに夫婦のけいやくはいたしたれども。それは當座の酒興も同然しかるを。今おしつけわざの仰その意をゑすと。いはせもたてず。小文次膝すりよせ。たとへそのほうは當座のたはふれにもせよ。むすめのかたには實情とおもひ。すてに一命をすてんとまで約定しながら。そのほう心がはりせしゆへ。其時のむすめの難儀。いかばかりとおもはるゝぞ。必竟そのほうになぶられし段。われらきゝても堪忍ならず。されども今むすめと。夫婦のゑんをくまれなばそのとをり。さほど不實意の男を。戀したる娘の貞心にめんじ。外の約束を断めしつれくだりし上からは。そのほう取敢ざればとて。ふたゝびおめ／＼と。娘をつれて立歸り。どのつらさげて。世間へ顔出しなるべきや。そのほう不得心のうへは。むすめもいきてかへらぬころ。われらとて。覺悟をきはめおれば。そのほう有無の返事が生死のさかい。性根をさだめて返答せよと。顔色するどく。居丈高となりせめいふにぞ。喜代七もてあまし。迷惑ながら。だんだんのおことばこなた身にとりては子細なく。ことに愚妻も病死し獨身なれば。祥みなれども我儘にも成がたし。母はじめ親類どもへも。相談のうへならでは。とかくの御挨拶におよびがたしと。半分きかず小文次いふ。さあらばその母びとへも。われら面談し。自他とも納得あるやう掛合。埒あけて歸るべ

けれど。しかしそれにもおよばぬこと。縁談の道ばかりは。その當人こそ肝心。そのほうさへ承引なればあいすむこと。餘人にはかまはぬ。返答只今聞きらんと。かたなをとりまはし。鑿うちたゞき。否といはゞいかなる變事をも。仕出來さんけしきなれば。喜代七もはじめのほどは。おふり病死して間もなきことゆへ後家おかちのころをかねて。とりあへざりしが。今小文夫のはげしき氣色におそれ入。終に納得し。その挨拶におよびければ。小文次もおもてをやはらげ。承知のうへはとかくの了簡なし。さあらば明日こそ最上の吉日なり。婚姻とさだむべし。我等この大佛前に止宿しおれば。すぐさま立かへりて萬端のしたくをととのへ申すべし。去ながら旅中のこと調度かれこれゆきとどかず。不足の分は追々あとよりさしこすべし。まづは早速の得心われにおゐて満足なりと。はじめにかはりし應對念頃に申述。猶も明日めてたく再會いたすべしと。約束をかため。むすめをいざなひいてゆきければ。喜代七ほと溜息をつきて。忙然とし居たるが。かくてはすまじと。このこと餘義なきよしを。母おかちの手前。人をたのみて。申つかはしければ。おかちも今は剃髮して。佛のみに入。こゝろもやはらぎ。とかくのことをいはず。聞濟しにより。喜代七こゝろならずもせんかたなく。にはかにその用意はなせども。またおりさること。片心にかゝり。それとても捨おくは不便なりと。こゝろひとつとつおいつ。これもまた煩惱の鬼のおれをせむるといふにやあらむ

風聲 所縁の藤浪後編中册終

風聲 所縁の藤浪後編下册

十返舎一九著

第七回

男女の縁は日の本の神々。毎歳出雲の大やしろにあつまり給ひて。それ々に赤繩の因を。むすび給ふといひつたふ。されや花の都の艶女も。雲井路の奥ふかき國より簞をむかへ。あづまの人しらぬ火のつくしより嫁をとるも。さだまれる縁にして。さだまらざるも又この道なり。喜代七はおふりあいはずより間のなきことゆへ。母おかちの手前をはぐかり。つれなくいひしも。ぬきさしならざる始末におよび。終には納得し。このこと後家おかちへも相談せしに。今おかちが已前とちがひて。何ごとも後生心にて。すなほなりければ。いづれにも喜代七の意に。まかすべしとのことにて。それに決着し。すでに約定のごとく。けふ玉照の興入とて。青原屋の混雑それの支度残るところなく。夜に入とはや簞箆長持一棹づゝさきへもたせさしこし。つゞいて小文次しかつべらしく上下あらため。玉照に綿を打させ。立派に出たちきたりて。それ々に會釋し。まうけの座席になをりければ。やがて喜代七と獻の盃。ごとはじまり。古例の儀式のころとなく。三々九度もおさまり。皆々千秋樂をうたひて夜もはや深更におよびければ。いろなをしの式とて。別間にまた酒盛もすみ。屏風ひきまはせしうちに。喜代七寐ころびながら。娶の衣服をあらため。出きたるを見れば玉照にはあらざるゆへ。これはと懈轉し。よく見るに。すぎしころ化粧坂にて。本意なくわかれしおりさなるゆへ。おもひがけなくあきれ果。あまりのことに言句も出されば。おりや葉爾とうちわら

ひ。たもとをくちにおほひて。さもうれしげに寄添にぞ。こなたは一圓不審はれず。そもこれは切通しの地藏にあらで。狐狸のなすわざかと。臆を消しこゝろまどひて胸におちず。つぎの間より玉照うちかけすがたにて。丹松の手をひき出きたり。喜代七にむかひいふやう。わが身は今西國がたの去る御屋敷に。家老職をつとむ人の妻となりしに。夫身まかり世繼なくして。名跡退轉せんとするにより。一家のうちに奸佞邪智ふかき人ありて。夫の家督を押領せんと。さまざま讒言をかまゆるものあるにつけ。このたびその申ひらきの爲め。あづまの御やしきへくだる途中。馬入川のわたしげにて。これなる丹松にあひ。かれが身のうへ。いさいのはなしをきくところに。おさなきものに似合ず。身一分のはたきにて。姉をばくくみし。こゝろざしのしをらしさ。また姉御おりさどの貞節。としわかき人々の繼母にかゝりて。さまざま難苦勞。不便さあまりて。きけばきくほどいとほしきは。おりさどのいひかはせしおとこは。人にねとられしよし。そのおとこは喜代七さまと。いふ名を聞よりわが身にもおほへある名。とへばとふほど。すぎし年都にて。お情にあづかりしおかた。たばかられし恨はあれども。おりさどのこゝろね。こなた身にひきくらべて。いたはしくおもふのあまり。いらざることながら。喜代七さまと夫婦となし。兄弟の衆の本意を上げさせたく。わが身藤澤の宿に逗留のうち。おりさどのゆくゑをきいたまひ。身の代金を償ひうけもどし。今宵の仕義あからさまにいひ出さば。かねてむねあしきと聞およびし。繼母の批判もあらんかと。わがみ以前の名をなのり。若黨小文治を父といつはり。かくはからひしゆへにこそ。有無をいはさず。この始末におよびたれば。わが身もさまざま。こゝろをつくせしかひありて。いかばかりのよろこびさりながら。喜代七さまをたばかりしは。先年わが身をいつはられしかはりとおもひ給ふべし。かねて長持のうちへ。おりさどの兄弟の衆をかくし入れおき。こなたしゆかうのふたをあけて。ふきかへの嫁御寮。おわたし申うへからは。ゆくすゑながく。中むつまじう。そひとげ給へと。戯れながらのつめひらき。委細をききて。喜代七おりさのよろこびなみだ。つゝむにあまるうれしさは。顔のみみちに

あらはれて。只ふしおがむばかりなり。喜代七低頭して。まことに以前は若氣にて。御身をいつはりしそのむくひ。歸國早主人のふ興を請千辛萬苦せしも御身の罰。御にくしみもあるべきところ。だんくの御厚志。御禮ことばにつくしがたしと。きくより玉照。そのお禮のかはりには。おりさどのへひとつのねがひ。この弟御をもらひたし。最前もいふとほり。夫死去せられてより。家をつぐべき子とはなく。ことに役柄といひ。大切の家すじ。押領せんと。こゝろがくるものあるによりて。はやう世繼をさだめたく。相當のものゝあれかしと。尋さがせど今もつて。夫のあとをつぐものなし。祥なるかな丹松のいやしからぬそだちといひ。こゝろざしに見どころあれば。所望して養子としたき。わが身のねがひ。是非とも聞とゞけ給はるべしと。餘義なきたのみに。何がさてかゝる御厚情にあづかりし上は。何ごとにても。おほせ違背いたすまじ。おこゝろまかせと。喜代七夫婦。かぎりなくよろこび。それより玉照を篤くうやまひ。もてなしけるにぞ。玉照も安堵して。すぐに丹松を誘引し。わかれをつけて出たちける。丹松の身の出世。おもひもよらぬ仕合は。善種をまきしゆへなるべし。去ほどに玉照もとはいやしきながれの身なれども生質惻憫なる故西國がたの藩中になじみ。請いだされて妾となりしが。その恩義に感じて。まめやかにつかへけるゆへつゝに本妻となりしに。はからずも其夫病死し。家督をつぐ男子なく。親族のうち腹あしきものありて。その名跡を襲ひとらんと。たくむものあるゆへ。それにつき。玉照このたび。くにもとよりくだりしにて。道中馬入のわたしばより。丹松をめしつれて。ゑのしまへの案内させ道すがらかれがとりまはしのかしこきうへ。こゝろざしもまめやかなるを察し。さてこそ養子となしたるにて。玉照の利發末はしらず。まづは男まさりと見へにける

第 八 回

嬰兒の深淵にのぞむを見ては。いかなる兇徒といふとも。これを見つづるものなし。たすくるは仁なり人として道心

なきことなし。悪にそみ。道にそむけるものも。本分にかへるときは。善ならずといふことなし。藤浪やの後家おかしは、法體して名を。妙香とあらためもつはら後世の道に。心さしをはこびけるが。もとよりおりさのたよりをおそれての發心なれば。おのれの罪のおそろしさに。ほとけたのむもひとすじなれば。おのづからよそ目には殊勝におもはれて。人も感ずるほどなりける。しかるにさきだつて入水し。はてたりとおもひし。おりさ兄弟。安穩にて此節。喜代七かたへひきとりしことは。耳に入れども。今更あふも面伏にて。なにとやらこころおくれ。青ばら屋へも無沙汰なりしが。おりさのかたには疑念もなく。かくなるうへは以前のごとく。隔意なきよし。喜代七媒酌となりて。妙香をすゝめおりさに引合せ。和熟をとりむすび。それよりはたがひに。おく底なくうち混じ。相談のうへ青原屋の見せをば手代どもにまかせおき。喜代七おりさは。雪のしたの藤なみやかたへひきうつり。妙香ははなれやまに菴室をしつらひこれに隠居し。としごろこころしりたる。乳母ひとりめしつかひ。安樂によをくらしけるが。ある夜ふけて。月くらき折から。草庵のうら道より。妙香のふしたる居間の椽がはつたひに。しのび入ものあり。妙香目をさましはわおき。聲をたてんとするを。かのもとのびかゝりてひきすへ。いだきよせていふ。御身さやうにおどろきたまふな。さてもわれを見わすれしか。我こそは先年。御身とふかくかたらひし段兵衛なり。まことに。ひさんくにての對面。なつかしかりしと。頬かふりにせし頭巾をとれば。以前にかはりしその面色。いろ黒くほうばねあれて。まなこざし尖く。身には垢づきたる。やぶれ布子の廣袖にしたるをちやくし。顔かたちのみか。こころさまもさこそと。おもひやられて。妙香ぞつとし。身の毛たちておそろしく。されどもむねをなでおろし。こころをしづめていふやう。そなたさきだつて。主人にいとまをも乞ふ。其うへ金子をぬすみだして。ゆくゑなくなりし不埒をまかへり見ず何ぞや夜中盜賊などのごとく。このところへしのびきたりしは。こなたを。女ばかりと。あなどりてのふるまひならん。人の見とがめざるうち。はやとくくと。出ゆき給へことばはげしく。いひはなち。とりあへざれば。段兵衛。まな

こをいからしいふ。いかにわがなりかたち。見にくなりたればとて。さやうの愛想づかしこそうらみなれ。御身とでも。その以前髪かたちうつくしく。粧ひつくりしときとはさまかはりて。今そのくりく坊主あたまには。相應のわれら。むかしのちぎりわすれがたく。なつかしさに。これまでも。そよとの風のおとづれをも。せまくほしさはやまくなれども。藤浪やへは顔出しならず。この頃こゝへ隠居の身と。きくにうれしく。晝はひとめをはばかり。夜にまぎれやうくとしのびきたりし眞實には御身迎もよろこぶはづ。それにひきかへ。すげなき挨拶。たとへこころがはりせしにもせよ。せつかくのおもひはらさずに。すごとくかへるべきや。せひともこゝに一宿し。ひさしぶりにて夜ともかたりなぐさむべしと戯れかゝりて傍若無人のありさま。妙香うたてく身をもみあせり。すりのきてにげんとするをいだきとめて。いかなく逃とてにがすべきや。もし聲たてなばひとおもひに。しめころしくれんとて。妙香の咽もとをしめつけく。いかにくと動かさず。妙香くやしなみだにくれながら。なまなか以前のわけあるゆへ。そのあやまりに。こゝろづよくもいひはなさず。のがれんにげんとあせれども。男ちからにかなはゞこそ。強悪不敵の段兵衛が理不盡の振舞妙香今はたまりかね。聲をあげてなきかなしむ。ものおとにおどろき。つぎのまにふしたる婆はねおきて。この體を見るより。あはてうろたへわけいりて。おしのけんとするに。段兵衛いかりてふみとばし。おのれは何ものぞ。この尼こそはその以前。われらふかくいひかはせし。女房同然の女わが自由にするに。いらざるさまたげして。怪我するなど。蹴ちらしてよせつけず。妙香を無體におしふせ。こけつまろびつあらそふ所に。はや夜はあけかゝり。鳥のつげわたるころ。あやしげなる女のふる布子ひつはり。かた褌帯にはさみ。手ぬぐひにかしらをつゝみたるがつかくと入來るを見れば。これもふちなみやに奉公して。段兵衛と不義せし。婢女のおくまなれば。段兵衛見るより。蒲團ひきかぶりかくるゝを。おくま尻目にかけて妙香にむかひ。ゑがほをつくりて。さてもおひさしや。わが身ことあなたさまに。御奉公の内御高恩にあづかりながら。ふとせしことより段兵衛どとの密

通しそれゆへにこそ。段兵衛どのは。かけをちせられ。わが身もおいとま出たれども。くされ縁とて。さだまるおつとをよそにして。段兵衛どのは。今もつてはなれぬなか。さりながら。お家の支配もせられし人。骨折わざはいたしつけず。じつとして商賣をしようには元手がなし。それゆへあなたへは。ちかごろまいりにくけれど。わが身のつまりにせんかたなく。御無心にまいりしなれば。なにとぞして金子三十兩ばかり。おかしなされ下さるやう。そのおねがひと。唇をそらしてしやべる高ゆすりに妙香はぎよつとして。あきれはてしが。けしきをあらためいふ。何事かとおもひしに。けしからぬごとをきくものかな。そなた何とこゝろえて。左様の筋なきことを。よふもいはるゝあつかましさ。ほうこうの内不埒にて。いとまを出し。出入をとどめしものゝ。今さら此身へ大まいの無心。あらうことか。いかにこなたを。女主人とあなどりてのことならん。よしそれはともあれ隠居の身。本家よりのみなまかなひ。外に貯もなければせんかたなしとて。とりあへざればおくま巨口をあきてうちわらひ。なるほどおたくはへはあるまじけれど。御才覚なさればとゝのふことを。それともに。金子のかはりに。くさるほどあるお小そてを二三十ばかりも。おかり申せばそれにて間にあふこと。もつとも御奉公のうち。ふとゞきせし身の。今かやうのおねがひにまいりしは。横道のやうにきこゆれども。あなたといとしほがりなされし。段兵衛どのゝこと。おいやとばかりはいはれまじと。いひつゝそこに。うちふし居たりし。段兵衛をゆすりおこし。のふこゝな人はわしにばかり。くちをきかして。しらすかほにねてゐるところか。そなたの商賣の出来るやうにと。今そのおねがひさいちう。わしのくちからいふより。あなたとはほれたどうしの。じきんゝにはやうゝと。段兵衛をおしやれば。打うなづきつゝ妙香の手をとりて久しくたえてあはぬ内。外におとこの出来しと見えて。ゆふべよりのしなし。ちかごろきこえぬしかた。こらへたるも金のほしさ。このうへは今おくまのいふとをり。金ならわづか三十兩か五十兩。ぜびともかりて歸る了簡。もしまた金子なくば。衣類諸道具鍋釜までもはづしてかへると。さもにくさげにおどしつけて。弱みをつけこみおくま

もともに詰寄く。これほどにたのむを。いやとあれば。こなたにも言分あり。むかしはともあれ。今はこの段兵衛どのは。わしのために大事のおとこ。ゆふべからここのうちへひきこみ。さだめしくされつき合て。たのしみしにちがひはあらじ。こなたおとこをねとられては堪忍ならず。つふりばかり坊主にて。賣女にもおとらぬ悪性女。もとは主人でも戀に上下のへだてなし。うらみのほどおほへや。はらたちやとりすがり。むなぐらとりてひきまはされ妙香くちおしなみだせきあげく。おのれもと主のわが身へ對しこの法外。はなせゝとあらそふを。段兵衛おくまにならびて。妙香を打たゞき。せめさいなむありさま。午頭馬頭の鬼の罪人。を苛責するもかくやらんと。おもふばかりのおそろしさに。妙香いけるこゝちはなく泣くずをれいかにやせんと。途方にくるゝばかりなり。さればこの段兵衛。さきにおくまに狎通し。その夫赤かしの權兵衛にゆすられ。それより藤浪やを出奔しつれど。内證おくまと縁きれず。權兵衛の目をぬすみ。又してもしのびあひに。言合して。この妙香の隠居せしを。ゆすらんとて不敵にも。かゝる遺悪の所行この庵室は。人家はなれし。藪中のひとつ家にて。なきさけぶこの罵る聲も。ほかにしるものなれば。出合ものもなく。はてしつかず。しかるにおくまのおつと。權兵衛は。密夫段兵衛今もつて。おくまに通しおることをいきどふり。とかくおさへて存分にし。腹んとて心をつけめたりけるが。夜前段兵衛。おくまを呼出しに來りしやうすを見てとり。この庵室へねだりに來べき内談。いかゞしてや聞いたし。子分のあくたれものども二三人をかたらひ。あとをつけきたり。兩人ともこゝにあることを。外面より見つけ飛こみ。遠慮會釋もなく。段兵衛おくまをとつて踏のめし。おしすくめていふやう。汝等兩人の不義。今もつてやまず。我はな毛をよまれ。堪忍なりがたし。只今打ころすはやすけれども。生しおきて恥顔かゝせんには。耳鼻をそぎすてくれん。まづ密夫めが着たるはわが布子。女よりあたへきせたるならん。にくさもにくしおくまもろともひきはきて。赤裸となすべしとて。子分のものどもに目くばせし。それと差圖にたちかゝり。段兵衛おくまを引とらへ。有無をいはず帯ひきほどき。衣類を

はぎとりつきとばされ。兩人鬼の目になみだをこぼし。面目なげにうちしをれ。身ぶるひしてすくみあがるを。權兵衛用捨なく。段兵衛を膝にしき小わきざしをぬきはなし。鼻のさきをきりおとされ。わつとばかりに聲を上て。なきわめくを見るより。おくま裸のまゝに。はしりいだすを遁さじと。追かけてひきもどし。おしすくめられ。これも權兵衛に鼻をそがれ。兩手にかゝへてふたりとも泣かなしむを見むきもせず。權兵衛みなく。打わらひつゝ出ゆけば。段兵衛あとにてなみだながら。これも戀ゆへせひもなし。さるにてもうらめしきは妙香尼。われくの無心かなへくれなば。その金子をもつて。權兵衛へわびことし。かゝる目にはあふまじきになさけしらすの妙香どの。此上はふたりとも。當分爰の掛り人。さしあたり此寒さこらへがたしと。ありあふ夜着ふとんとりて引かぶり。手ぬぐひにて。はなのさきをしかとくゝり。それよりはなにをいふやら鼻聲にて。わけもしれざるおかしさは。こゝちよかりしことどもなり。しかる所に藤なみや丹松は。玉照のかたへ所望せられ。喜代七より萬端の支度残るかたなく。明日爰もと發足につきて。けふはなれ山の菩提所へ佛參のかへるさ。この庵室へ案内させ。入きたる丹松つねにかはり。小袖上下立派に兩刀をよこたへ。若黨小文治つきしたがひ。鎗はさめ箱草履とり。いづれも美敷敷出たたるに。段兵衛おくまはこれを見るより。びつくり仰天したとあきれはてゝしりごみするにぞ。妙香もいまさらおもてぶせながら出むかへば。丹松會釋し。あづまのかたへ發足のいとまごひ。かれ是挨拶におよぶうち。丸裸の段兵衛おくまのありさまいぶかしく妙香に。いさいのことをたづねきゝて。そは言語同斷のやつばら。おひはらへとのさしづにより。侍中兩人をひつたて。椽より下へつきおとせばなをうちて。ながるゝちしほも。なみだまじりに。身は砂まぶれとなり。立かぬるをまたはね飛され。つきのめされて。こそくゝとにけゆきける。妙香もしきりに以前をくやみ。丹松の出世をよろこび。門出の盃ごととしてゆくすゑを壽く所へ。喜代七夫婦もあとよりきたりともに祝する家の風吹つたへたるものがたりめでたく筆をさしおきぬ

昭和三年五月十日印  
昭和三年五月十五日發行

特製  
第一回配本

【非賣品】

帝國文庫  
(第十篇)  
人情本傑作集

編輯者兼  
發行者

右代表者  
取締役社長

東京市日本橋區本石町三丁目十六番地

株式會社  
博文館

大橋勇吉

東京市小石川區久堅町百〇八番地

君島潔

印刷者

東京市日本橋區本石町三丁目十六番地

發行所

株式會社  
博文館

振替口座東京二四〇番

製版所  
印刷所  
製紙所  
製本所  
製函所

共同印刷株式會社  
共同印刷株式會社  
王子製紙株式會社  
井上製本所  
香取製函所

魁剛文前

卷一  
卷二  
卷三  
卷四  
卷五  
卷六  
卷七  
卷八  
卷九  
卷十

卷一  
卷二  
卷三  
卷四  
卷五  
卷六  
卷七  
卷八  
卷九  
卷十

卷一  
卷二  
卷三  
卷四  
卷五  
卷六  
卷七  
卷八  
卷九  
卷十

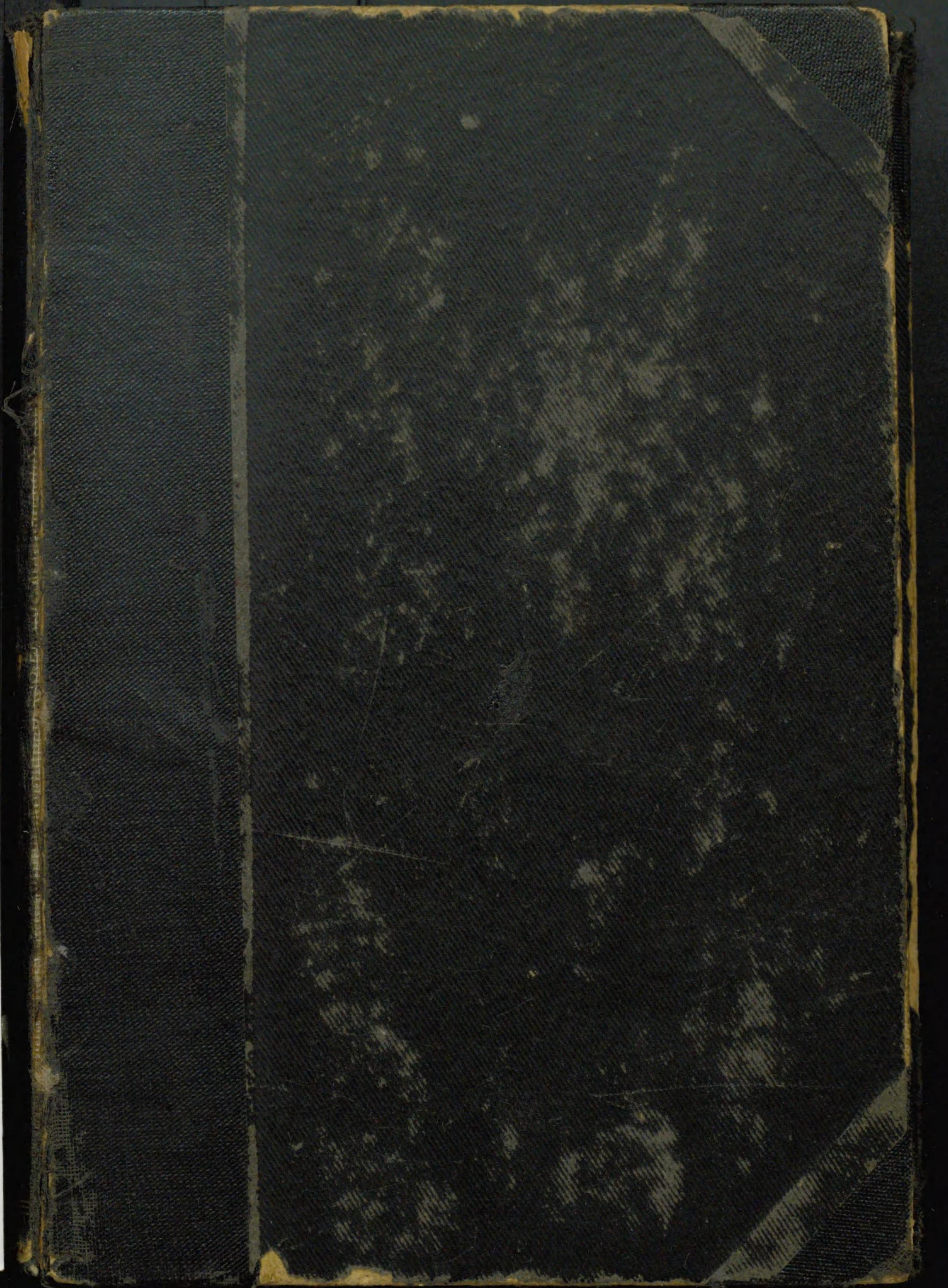
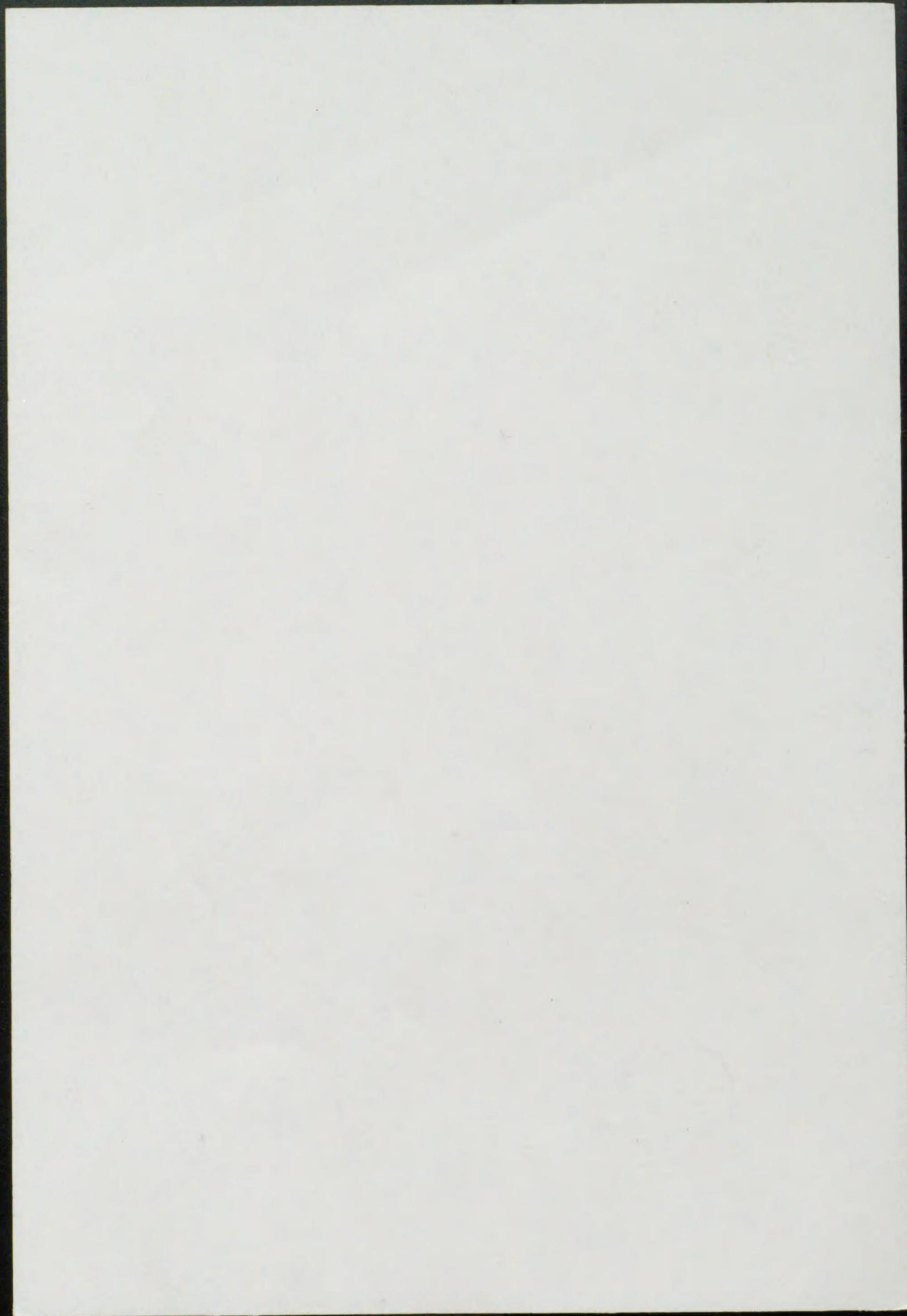
卷一  
卷二  
卷三  
卷四  
卷五  
卷六  
卷七  
卷八  
卷九  
卷十

卷一  
卷二  
卷三  
卷四  
卷五  
卷六  
卷七  
卷八  
卷九  
卷十

卷一  
卷二  
卷三  
卷四  
卷五  
卷六  
卷七  
卷八  
卷九  
卷十



583  
15

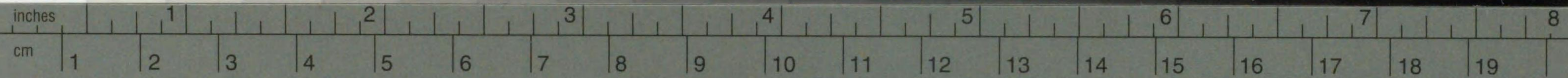


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

